



学校だより

令和6年6月20日  
豊岡市立但東中学校  
6月号

# 一人一人が主人公

【 学校教育目標 : ふるさとの未来を創る 自分をつくる 但東の子 】

## 修学旅行が無事終了しました

5月23日から25日にかけて、3年生は修学旅行に行ってきました。

修学旅行の活動はどれも素晴らしいものばかりでしたが、その中でも私が最も印象に残ったことは、見学地の1つ「ムラーボ」のスタッフの方の言葉でした。ムラーボでは、村田製作所が携わっている製品の科学原理について、子どもたちがクイズやゲーム等、体を動かしながら体験的に学ぶため、手荷物は全て所定の位置に置いて活動をします。その全ての体験活動を終えたその帰りのことです。

「手荷物をこんなにきれいに並べる学校は初めてです。」ムラーボのスタッフがそう声をかけてくれました。子どもたちからすれば「手荷物はここに置いてくださいね。」と言われたので指示どおりに置いただけなのですが、その手荷物の置き方のあまりに整然とした美しさに感動したと言うのです。

子どもにとっても私たちにとっても当たり前のことですが、その当たり前が素晴らしいと評価されたのです。これほど誇らしいことはありません。残念ながらその荷物の様子の写真はありませんが(荷物の写真を撮る人は誰もいませんので…)、いかにも但東中学生らしいなあ、と感じたエピソードでした。



## トライやる・ウィークが終了しました

トライやる・ウィークが、6月3日から6月7日まで実施されました。このトライやる・ウィーク結団式で、私は子どもたちに「ただ言われたことをするだけでなく、自分で考えてより良い活動ができるように、工夫して活動してほしい。」という内容の話をしました。

仕事には必ず目的があります。その目的を達成するために会社や事業所が存在します。そこに所属しているスタッフは、その目的の達成に向けて、それぞれが自分の資質・能力を最大限に発揮し、より良い仕事をしようと日々努力しています。

時々、誰にでもできる仕事という言葉が耳にすることがありますが、誰にでもできる仕事は存在しません。どのような仕事であっても、人が関わる以上、そこには必ず自分という個性、資質・能力が影響するからです。そしてそれこそが「自分が仕事をしているという証」であり、それはやがて「仕事への誇り」へとつながります。これ無くして仕事とは呼ばず、仕事は単なる作業、もしくは労働になってしまいます。

トライやる・ウィークの最大の目的は、単に作業や労働の大変さを体験させることではなく、現場で活動しているスタッフの皆さんの働きぶりや熱意を肌で感じ取り、その「仕事への誇り」を子どもたちに気付かせることにあります。子どもたちに気づきを与える活動に取り組んでくださった事業所の皆様に最大級の敬意を表すと共に、本校の教育活動に対するご協力に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。



## 「サポートルーム」を開設します

但東中学校に「サポートルーム」を開設します（※毎週月曜日～金曜日の午前中）。それに伴い、サポートルーム支援員の 伊達 ゆかり さんが、6月17日（月）に着任しました。「サポートルーム」とはあまり耳慣れない言葉ですが、簡単に言えば「心と体を休息させる場所」です。もっと言えば「何もしなくてもよい場所」です。もちろん学習しても構わないのですが、それは自由です。

何事も日々スケジュール通り、決まった時間に決まった活動をすることは大変効率が良いのですが、全ての人が常にそのように活動できるわけではありません。また誰もが病気にかかったり怪我をしたりするように、誰でも心が病気にかかったり怪我をしたりと、調子が悪くなることがあります。そんな時利用するのがサポートルームです。

利用するのに予約も理由もいりません。「ちょっと休んでもいいですか。」そう声をかけてもらえばいいのです。そんな居場所を但東中学校の片隅につくりました。「休もうと思えばいつでも休める。」そう思えるだけでも少し心が軽くなります。興味のある人は利用しなくても、のぞきに行っても構いませんよ。伊達支援員さんが待っています。

## ウォータースタンド（浄水器）を設置しました

例年よりも梅雨入りが遅いのに、日差しだけはさながら夏本番のような日が続きます。これから益々気温が上がるにつれて、今年も熱中症を心配しなければならない季節がやってきました。

その対応策の1つとして、校舎に2か所ウォータースタンド（浄水器）を設置いたしました。冷たい水ではありませんが、水道水を浄水し飲料用として利用できるようになりました。日本の水道水の基準は素晴らしく、そのままでも十分飲料には耐えられますが、やはりお腹が痛くなる心配のある子や、抵抗のある子もいるのではないかと思います。また普通の水筒では足りず、何本も水筒を持ってくる子や、大きい水筒を持ってくる子もいました。これで多少なりとも子どもたちの水分不足の心配や負担の軽減につながると思います。ぜひ活用してください。ただし、使い勝手の良い「マイボトル」を持参することを忘れずに。

